

# 地域産業資源

## 「白いも」を活用した新事業展開

＝新居浜・大島で収穫される白いもを活用した産官による新たなビジネス展開＝

支援機関：東予産業創造センター

支援内容：商品開発

支援区分：地域資源活用

### 株式会社プロップ

## Information

#### 【企業概要】

社名：株式会社プロップ  
 代表者：代表取締役 白石 真奈美  
 業種：菓子類及び農産物加工品の販売  
 所在地：新居浜市久保田町3-9-27  
 資本金：10,000,000円  
 設立：平成14年2月26日  
 従業員：2人



#### ◆ 商品の紹介

「白いも」とは、愛媛県新居浜市の新居大島(大島)で栽培されている食用の芋。サツマイモの一品種で「七福芋」とも呼び、表皮は白身を帯びている。甘みがやや強く、食味は良い。特に収穫後、貯蔵し、年を越える頃には、実が柔らかくなり、色も飴色を帯びてきて、ぐんと甘みが増す。しかし収穫量は他の品種に及ばない。また、大島では育つが、他の地では栽培が可能なものの、大島産に比べ食味がやや劣るといわれているが、土質の水はけに関係するといわれている。

※出典：フリー百科事典  
 「ウィキペディア(Wikipedia)」より



## ◆ 新居浜大島とは？

新居浜市の東部の沖に浮かぶ有人島(人口約350人/2.13km<sup>2</sup>)で本土より約1.2km離れた燧灘に位置している。地形は100m前後の山々が海岸線に迫っており、平地は島の南部にわずかに存在し集落が集中している。瀬戸内海特有の温暖で多照寡雨の気候である。

村上水軍発祥の地ともいわれ、古くは海運の良港として栄えていた。別子銅山閉山前には別荘も多くあり、海水浴客で賑わっていたが、水産業、農業ともに衰退しており、現在では年々渡島者数も減り、島人口の減少、高齢化など深刻な問題を抱えている。



## ◆ 支援までの経緯

- 「白いも(七福芋)」は新居浜の大島で収穫できる特殊な品種である。
- 農村の過疎化により白いもの生産が将来困難な状況となる。
- NPO法人による「構造改革特区」認定を取得し特定法人の参入を実施。
- 平成16年12月「大島白いも特区」による白いもの生産に着手(NPO法人GOODWILL)
- 白いもの取り扱い及び販売を(株)プロップの設立により開始した。更に白いもから醸造された焼酎「あんぶん」を発売するが、白いもの出荷量は伸び悩む状況にある。

## ◆ 事業概要(プロジェクト化の推進内容)

- 平成19年9月東予産業創造センターにて「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」を申請し、中小企業基盤整備機構から採択を受ける。活用する地域資源は新居浜の「白いも」「黒米」。
- 白いもの用途拡大及び生産体制の強化を目的に、地元企業との連携強化による商品展開、地元活性化を計画した。
- 具体的には、都市圏を中心に流通、経営コンサルティングとして活躍される(有)アイ.ビー.エス 代表取締役 飯塚理夫氏をプロデューサーとして招聘し勉強会を数度に渡り開催する。野菜のスパルタ農法で知られる(株)永田農業研究所 代表取締役 永田照喜治氏やこだわりの食品を消費者へ届けるオイシックス(株) 商品開発チーム青果スーパーバイヤー 小堀夏佳氏から農法に関する指導や地方に埋もれる魅力ある食材紹介、展開事例について紹介を受ける。
- 「地域力連携拠点事業」にて、新居浜物産協会や地元菓子企業との連携で「白いも」を活用した新製品開発の試作など、プロジェクトとして本格スタート。
- 平成20年10月にえひめ産業振興財団から「チャレンジプラン」の採択を受け、白芋の成分分析や全国に向け情報発信できるよう、新たな菓子開発を目的に商品試作を実施している。



### ◆ 拠点の具体的な支援内容

- 地元菓子企業による「白いも」を活用した新製品を試作(18点)した。第三者評価を新居浜市役所(特に女性職員に参画頂き)にて実施した。
- 調査結果からサンプルの絞込みを行い、「香川・愛媛 せとうち旬彩館(東京都港区新橋)」での一般顧客を対象にした試食調査を実施(試作品4点)した。
- 更に「白いも(七福芋)」を新居浜の「地域ブランド」として構築するための活動を推進し、商標登録を検討している。



試作商品例／白いもチーズケーキ

- 新居浜物産協会と(株)プロップが中心のプロジェクトとして活動を充実し、更に大きな展開を図るべく「地域産業資源活用事業計画に係わる認定」の申請支援を行い、幅広い活動を目指す。
- 今後、各種調査結果を基に商品化の検討を予定している。



試食評価の様様

## ◆ 拠点を利用した事業者の声

東予産業創造センターの機能を自社のみならず物産協会の多くの会員が利用し、ネットワークの重要性を再認識しました。

①当社と食品加工メーカー及び菓子メーカーとのコラボレーションにより多くの菓子を試作できたこと、②専門家や新居浜市役所の協力を得て試作品の評価ができたこと、③えひめ産業振興財団の支援を得て白いもの成分分析や2度目の菓子試作に取りかかれたこと、④地域産業資源活用事業の申請により考えていた事業計画が書類になり整理されたこと等、多くのメリットがありました。

今後も支援機関や行政に協力頂きながら物産協会と協力し、新事業展開に取り組むとともに白いも(にいはま大島七福芋)を地域ブランドとして確立させていきたいと思っています。



プロップ 岡野泰典店長

Staff voice 

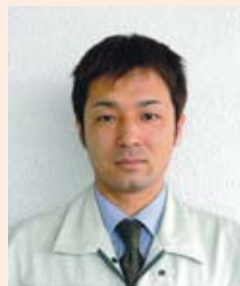
## ◆ 支援に携わったスタッフの声

「ものづくり」は「ひとづくり」から。そして「ネットワークづくり」から。東予産業創造センターの経営基本方針です。

(株)プロップさんを中心とした白いもを活用した地域ブランづくり、新事業展開は始まったばかりですが、これまでの取り組みから感じたことは、人のネットワークがいかに重要かということでした。

多くの菓子メーカーさんとの試作、食品加工メーカーさんによるペーストづくり、新居浜市職員の協力(特に女子職員)、新居浜物産協会との連携、えひめ産業振興財団の支援など多くの方や機関の協力によりここまで進んできました。

今後は地域ブランドとして「にいはま大島七福芋」が確立するよう、専門家の派遣や多くの方の協力も得てフォローアップしていきたいと思っています。

応援コーディネーター  
村上 哲也応援コーディネーター  
矢葺 広和